

## 令和7年度 学校関係者評価書

東京学芸大学附属国際中等教育学校

### 1. 学校関係者による評価

領 域	学校関係者による評価と今後の課題
学校運営	<p>生成AIの進化の速度が著しく速いため、AIの利活用についての校内規定については、頻繁に見直す機会を設けていただけないのではないかと感じた。</p> <p>いじめ重大事態について、発生を完全に防ぐことは難しい場合もあるように思われ、御報告いただいたように、発覚した後の対応が重要であるように思われる。</p> <p>御報告いただいた中で、学校の対応に問題があるように感じた点はなかったものの、保護者アンケートで好意的でない結果となっている項目があることを踏まえると、学校側の対策や相談窓口等について十分に周知されていない可能性があるのではないかと感じた。</p> <p>学校経営計画の数値目標として「学びの確認アンケート 年2回実施」が掲げられており、達成見込みである旨の報告を受けた。実施すること自体を目的とすることを批判する趣旨ではないものの、アンケートを実施しただけで終わらせてしまっは意味がないので、次年度以降の目標の中に、当該アンケート結果を踏まえたものを設定いただけないのではないかと感じた。</p> <p>まだまだ課題はあるものの、今年度の学校運営の目標の多くが達成されたことを評価いたします。来年度は部活動の部費負担を保護者には理解いただくには、少し時間がかかるかもしれませんが、学校方針を決めた以上、何とか滞りなく部活動が運営されることを期待します。</p> <p>施設の外部利用などによる費用捻出も今後の検討する必要があるのかもしれませんが。同窓会組織OB、OG、PTA組織の協力が必要になってくるかもしれません。</p> <p>働き方改革、校内防犯カメラ、学びの確認アンケート、AI利用と学問的誠実性についての校内規定整備、教務支援システムの有効利用、教育課程のスリム化、評定に関するミス、調査書記載ミス、いじめの対応、貴重品盗難、カリキュラム、授業、部活動、いじめ、進路指導、地域の連携 に関してはまだ課題があると思いますが、学校側ができる限り対応されていることに対して評価いたします。</p>
教育活動	<p>国際バカロレア教育、SSH、ユネスコスクールとしての教育が求められている中で、ユネスコスクールとしての教育の充実度についてのみ、教職員のアンケート結果が芳しくない。</p> <p>いずれの教育内容も相当程度重複する旨を御説明いただいたので、ユネスコスクールとの観点についてのみ評価が低くなってしまふのは惜しいように思われ、改めてユネスコスクールとしての教育の意義等について、共有いただきたい。</p> <p>学生に対して必要な指導が抜け落ちてしまわないように、教育課程をスリム化している旨の報告を受けたが、授業の総時間数の減少に伴い、授業についていけなくなる学生が生じる可能性があるように感じるので、そのような事がないように、従前以上に学生のケアを各先生にはお願いしたい。</p> <p>国際的な質の高い教育を子どもたちに与えてくださるTGUISSの意義はとても大きいものだと感じています。IBスクール、SSHスクールとしての活動も引き続き期待しております。特にIB認定校として、さらに充実したカリキュラム提供を期待します。</p> <p>14回生（令和7年度卒業生）の保護者としては、充実した学校生活を送れた生徒さんが多か</p>

	<p>ったと印象しています。</p> <p>進路指導の充実と保護者との連携が少し不足しているような印象があります。</p> <p>進路指導については、OB、OG、PTAの協力が必要な場合は学校側からも遠慮なくご相談していただけたらと思います。保護者組織の活用も今後をご検討ください。</p>
研究活動	<p>ISSチャレンジの取り組みは素晴らしいと思います。引き続き、多くの生徒さんが参加され、研究成果の場が保たれるよう期待します。生徒の学習、研究に対するモチベーションにもなると思いますが、ISSの教育の要のひとつだと感じています。この取り組みは、進学先での活躍に紐づくものだと思います。</p> <p>今年度からISSチャレンジの項目が変わりました。個人的には以前の文系、理系活動にわけた方がわかりやすいような気はしましたが、今後の研究内容の変化に伴い、学校側の変化に対する対応に関しては高評価です。</p>
学生の教育 ・ 支援活動	<p>教職大学院との連携や教職専門実習は評価できる。</p> <p>双方に恩恵が得られるような体制があるとよい。</p>
社会貢献 活動	<p>SA活動として様々な社会貢献活動が行われていることを評価する。</p> <p>地元、地域との連携のひとつに社会貢献活動があると思います。</p> <p>ボランティア部の活動以外で、どのような地域との関わりをもつ活動や研究活動があるのか、知りたいと思いました</p>

## 2. 評価の実施概要

対面会議を実施し、意見を収集した。メンバーの一部が同時双方向型オンラインで参加した。

資料として、学校経営計画及び数値目標の達成度合い、各分掌の点検・評価、学校アンケート結果、進路実績、年間行事予定表、を配付した。

## 3. 学校関係者評価委員会開催日 令和8（2026）3月12日

## 4. 学校関係者委員会委員

### ● 保護者代表 PTA会長

中川由記子

### ● 学校評議員

岡本 裕明

ダッタシャミ

福元 雄二郎

本橋 清彦

増井 多恵子

山口 博明